

県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成27年度 第29回 関東クラブバスケットボール選手権大会	開催地	さいたま市記念総合体育館
報告者名 (所属連盟)	桑島汐織・武井晋平(クラブ)		派遣期間 平成 28 年 1 月 30 日 ~ 31 日
参加者 (所属都県)	<p>【本部】 安西郷史(関東審判長)、久保裕記(関東副審判長)</p> <p>【関東指名】 清水幹治(神奈川)、平原勇次(東京)</p> <p><東京都> 藤代 透 上杉侑里子 原添さやか</p> <p><千葉県> 山崎敬次郎 中島弘幸 篠岸麻衣子</p> <p><神奈川県> 長谷川 裕 川路宗勅 松尾梨紗</p> <p><群馬県> 菊地真吾 石崎公一 穂川苑子</p> <p><茨城県> 一色 渉 武藤陽子 尾花幸雄</p> <p><山梨県> 河野 仁 手塚清孝 荻野 健</p> <p><地元埼玉県内審判員></p>		
【審判会議内容】			
<ul style="list-style-type: none"> ・関東ブロック長挨拶 安西ブロック長より ・派遣審判員紹介 上記参加者の通り ・審判会議講義 講師: 指名審判員 平原勇次氏 <p>クラブの大会とは・・・(過去の公認時代に派遣したときの実感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コートで起きていることが、掌握できなかった。 ・選手のイライラに戸惑った大会 ・軽くても、笛を入れないと荒れてしまう ・プレイヤーの心理を読む努力が必要 <p>講義は、実際に、高校生の全国レベルの練習ゲームの映像使用して、自分がコートに立っていたらどのような判定をするのかを一緒に考えながら講義が進められた。</p> <p>映像に使用されたゲームは、終始競ったゲームで、様々なケースが起き、審判の位置や取り上げているケース取り上げていないケース、そして、その時の担当審判員の“心理状態”はどうだったのか・・・を検証した。</p> <p>判定できなかったときの心理状態、ベンチからアピールのあったときの心理状態など様々なケースでの“心理状態”を想像や経験から振り返った。</p> <p>こうした、心理状態を検証することも、より良い判定に繋がっていく上で大切。</p> <p>ファウルが取れない！！</p> <p>次のあきらかなファウルはしっかり取り上げようと、心理が働く。</p> <p>しかし、取らなきゃ、取らなきゃと思った時ほど、足を運んで見に行かなければならない。</p> <p>意図してファウルを見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接触の“質”を見る その触れ合いを見て、被害がどれくらいの大きさがあったのか。プレイヤーの心理はどうだったのか。 <p>競ったゲームで、終了間際に起きたファウルについて確認。時限の終わったあとでファウルはなしなのか、前であれば残り時間は。</p> <p>ゲーム中の心理状態は、自分で解決するしかない。</p> <p>不安なことが起こっても、立て直して最後まで判定し続けられる心理状態を持たなければならない。</p> <p>常に、準備をしておくことが大切。</p>			
【感想・県内審判員へ伝えたいこと】			
<p>A級になってから、はじめての関東クラブの派遣になりました。</p> <p>自分の所属する連盟の大会ということもあり、より強い気持ちで大会に参加しました。A級になり、いままで何度か派遣させていただいた関東クラブ大会もはじめて主審で割当をいただきました。</p> <p>自分に任されたゲームであるということの責任感を改めて強く感じる大会でもありました。今回の審判会議でのレクチャーや二日目の一泊審判員レクチャーでも、取り上げられていた“心理状態”について、自分のゲームでも、また試合の見学時でもどんな心理状態なのか？だったのか？など、考えることのできた大会でした。</p> <p>今回は、一泊の派遣でしたが、二日目にも割り当てがいただけるよう、今後も一つ一つ丁寧に次のゲームに臨み、精進していきます。</p> <p>最後に、3日間埼玉県の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。(武井晋平)</p>			

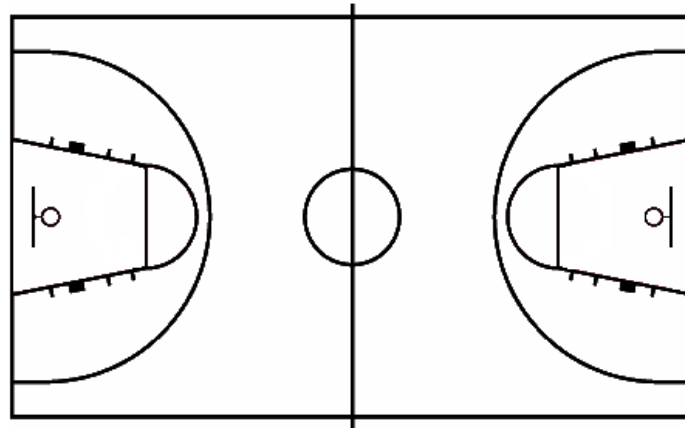
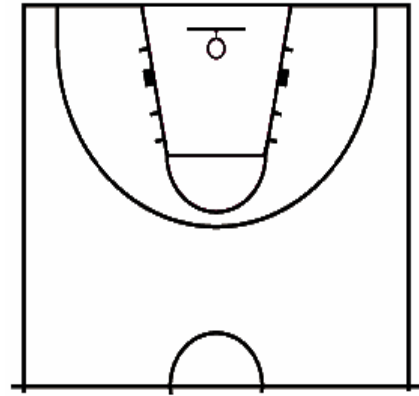
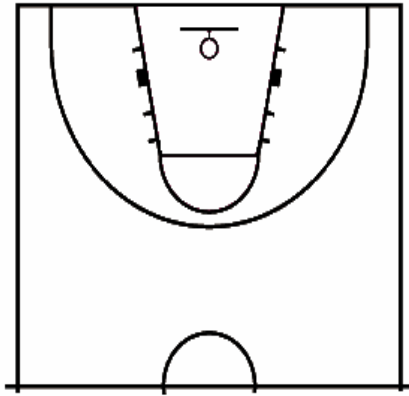
※この記録表は、各自で記入して審判委員長に提出して下さい。

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 28 年 1 月 30 日

審判員名	武井 晋平	相手審判	(主・副) 尾花 幸雄	所属 茨城
カード	ALSOK GUNMA CLUB(群馬)	対	NAVY(埼玉)	

◇ ケース・ポジションについて



◇ ミーティングの内容

関東クラブに毎年参加させていただいた中で、今年度はA級になってからはじめての関東クラブ大会の派遣であり、主審の割当をいただきました。

試合は、後半の途中までどちらが勝つかわからないといった競りあったゲームでしたが、最後は地元のNAVYが勝利し、二回戦への駒を進めました。

試合後のミーティングでは、入りは良かったが、その基準のまま一試合貫き通してほしかったと

反省をいただきました。ゲームのはじめでお互いに平等に取り上げていたものの、また同じことが起きたとき取り上げられないケースもあったので、一試合通して吹き続けることの大切さを改めて感じました。

また、試合の終わり方がスッキリしないので、試合の最後だからこそ細かく判定していくことが必要との反省もいただき、次の試合では気をつけたいと思いました。

《審判主任》 眞榮喜 工 氏(埼玉)

県 外 派 遣 報 告 書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成27年度 第29回関東クラブバスケットボール選手権大会	開催地	埼玉県 さいたま市
報告者名 (所属連盟)	桑島汐織 武井晋平 (クラブ連)	派遣期間 平成 28 年 1月 29日 ~ 31日	
参加者 (所属都県)	本部 指名 安西郷史 平原勇次 久保裕紀 清水幹治 東京都 千葉県 神奈川県 群馬県 茨城県 山梨県 栃木県 藤代 透 山崎敬次郎 長谷川裕 菊地真吾 一色 涉 河野 仁 増淵泰久 上杉侑里子 中島弘幸 川路宗勅 石崎公一 武藤陽子 手塚清孝 武井晋平 原添さやか 篠崎麻衣子 松尾梨紗 穂川苑子 尾花幸雄 荻野 健 桑島汐織 埼玉県内審判員 (敬称略、順不同)		

【審判会議内容】

1月31日(日)1泊審判員レクチャー; 清水幹治氏

《判定のためのメカニズムを考える》～確信を持てる判定につなげるために～

難しさの再認識
(からだの触れ合い)
 プレーヤーは常に動いている、姿勢も変化する
 動いている状態から空中にジャンプする※必ずしも真上にジャンプするとは限らない
 色々な方向に手を出そうとする
 肘を曲げることと、張ることは異なる
 コンタクトだけで判定してはならない
 …自分(レフリー自身)も動いている
 ↓これらを認識しながら、高さ・技術・プレイの考え方や捉え方が必要
 その場面におけるプレイの勝ち負けなども考慮して判定する

《トラベリング》
 ルールは誰もが理解している…ただし適用につながっていない
 コンタクトと足元の両方を一度に判定しなければならない
 スロービデオによる再生での確かな検証ができるわけではない
 意識の仕方によってファウル以上に幅が大きくなりやすい
 進行しながら起こることが多い(トレイル、リードの分担)

パーソナルファウル
トラベリング

プレイの流れ、DFとの関係を判定
材料に入れる
トータルで判断してその場に合った
判定をしていく
トラベリングが起こる可能性を常に
先取りする

↓ 確信をもてる判定につなげるために

- ① 思考・動き・位置取りの準備／視野(焦点)の当て方／微妙なケースに対する決断
 “予測”ではなく“準備”をすること
- ② 説得力のあるor欠ける判定／場に合った判定orそぐわない判定／信頼性につながる判定or損ねる判定
 - ・早い笛が信頼につながる
 - ・結果を見てから吹くことで誰もが納得する
 - ・早すぎることでプレイ全体が把握できない
 - ・遅すぎることで信頼感が薄れる

早い笛と遅い笛を使い分けることがベスト
自分のタイプやミスしやすい傾向を知っておくことも大切

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

29日(金)の審判会議でも平原氏が“メンタル”というお話を随所に出してレクチャーしてくださいました。清水氏のレクチャーの最後においても「自分のタイプやミスしやすい傾向を知っておく」という中で“メンタル”的な部分が関わってくるというお話をしてくださいました。試合中に自分の判定したものに対して「違ったかも」とか「なんかあった気がするけど確認できなかった」またはチームやベンチからのアピールがあったとき、どのような心理状態になるのでしょうか？多かれ少なかれ、焦ったり萎縮してしまうことがあると思います。そして、その後の判定に影響してくることもあると思います。

そのような時こそ、どのように気持ちを切り替えてオンザコートにいるかが重要になってくるのだと考えています。その為にはセルフコントロールも必要でしょうし、ルールブックを熟読してルールの理解をしておく、またプレイの理解をしておくことで自信を持ってオンザコートにいられるのだと、改めて認識しました。

私も含め県内の仲間の皆様には一つでも多く様々な試合を経験して頂き、メンタルも含めた実力をつけていく活動を続けて欲しいと思います。

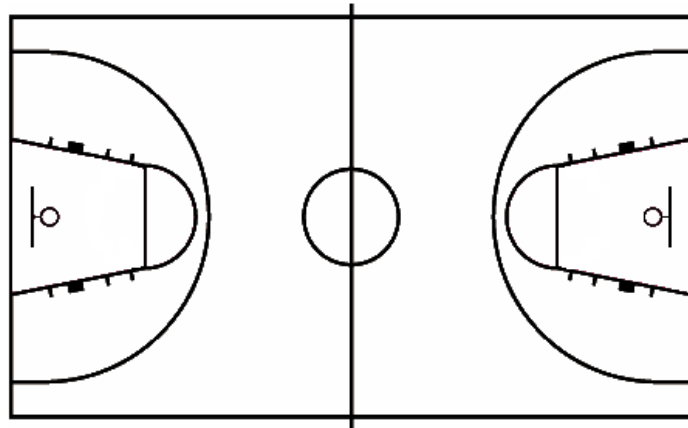
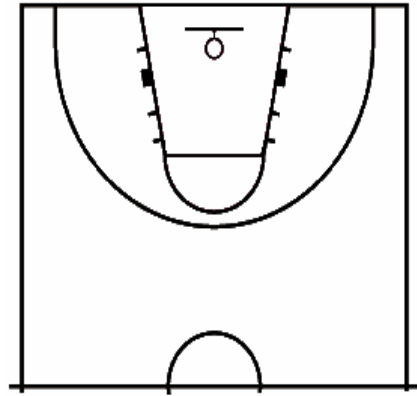
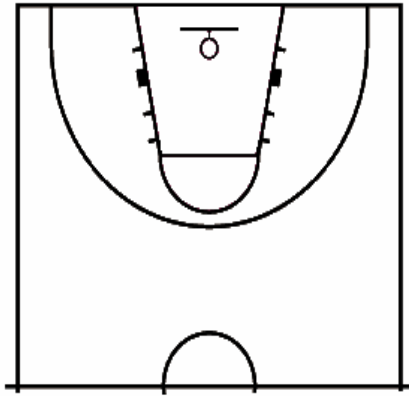
渡邊整審判長をはじめ、今回の派遣に際しまして県協会、県内審判員の皆さまのご支援、ご指導などをいただきましたことに心より感謝いたします。

※この記録表は、各自で記入して審判委員長に提出して下さい。

審判員名	桑島 汐織	相手審判	(主・副) 小泉 登	所属	埼玉県
------	-------	------	------------	----	-----

カード	Team DADA(茨城1)	対	mamas(東京2)
-----	----------------	---	------------

◇ ケース・ポジションについて



◇ ミーティングの内容

後半になって、プレイの質が変わったことを感じて対応するように

→白のチームが不利になっていたプレーが幾つかあったが笛が鳴っていない

プレーの様相が変わっていること、なぜ変わったのかを感じられるように